

## 平成28年度の年間の活動

### 1. アンケートの実施

平成28年度の活動について役員会で検討した結果、アンケートを取る事にしました。

【活動案1】

自治会・町内会活性化セミナーの実施

【活動案2】

早良区防災センターでの消火体験や地震体験。玄海エネルギーパークの見学など

【活動案3】

美味安全野菜培養士資格取得セミナーの受講

【活動案4】

耕運機追加購入

【活動案5】

ゴミ置き場、アップルタウン入り口などに防犯カメラの設置

【活動案6】

毎年1~2回井戸水の水質検査もしくは飲料水にできるようなフィルターをポンプに設置

【活動案7】

年に1~2回アップルタウンの美化運動の実施

【活動案8】

県や市の補助制度の説明会を実施

【活動案9】

市が想定している、津波、地震、原子力災害等の説明会の実施

【活動案10】

各家庭へ防災グッズ（簡易トイレ・簡易ヘルメット等）の配置

【その他自由記述】

アンケート結果により防災活動と懇親会の実施方法についての要望が多く、この2つを基本に内容の検討を致しました。

### 2. 親睦会

#### 1) 子どもを中心とした親睦会の開催

夏野菜収穫後の空いた菜園を利用して、毎年懇親会のバーベキューを実施していました。ビンゴゲーム等子どもも楽しめる工夫は行っていましたが、子どもたちは成長するにつれ不参加も多くなり、最近は大人中心となっていました。賞を頂いたことでコミュニティと

いう原点に戻り、子どもを中心とした懇親会を実施する事にし、風光明媚な糸島半島の特性を生かして、浜辺でのバーベキューを行いました。中高校生も参加し浜辺は大勢の子どもたちで大盛況、総勢63名と例年を上回る大懇親会となりました。



#### 【参加者の声】

参加者が多かったうえに、役員の方の作業負担も少ない環境で開催されたので、皆でゆっくり話ができ、コミュニケーションの場として申し分ないイベントでした。また、砂浜という開放的な場所での開催だったので、子供はもちろんのこと大人のテンションも上がり、楽しい一日を過ごすことができました。

### 3. 防災活動

#### 1) 独自の防災活動の実施

糸島市の防災担当者を講師に招いて講習会を実施しました。

2005年3月20日起きた福岡西方沖地震は糸島半島沖が震源地であり、当時、アップルタウン高田北は存在していませんが、神社の石碑が傾くなど被害があったと聞いています。また、玄海原子力発電所から40Km圏内という距離に位置していることもあります。

講習会では、糸島市の防災への取り組みと災害時の対応について説明があり、防災マップの確認や周辺店舗との協定についても説明がありました。

毎年、地域(行政区)の避難訓練は実施されているものの、日頃から不安に思っている事を専門家に直接聞く事で防災に対する備えを改めて考える事ができました。また、市の広報誌等で周知はされているものの、防災担当の方から直接聞く事で災害が起こった時にどう行動すると良いか等、具体的な行動の意識付けが出来たと思います。

参加者も52名と防災意識の高さも確認する事ができました。

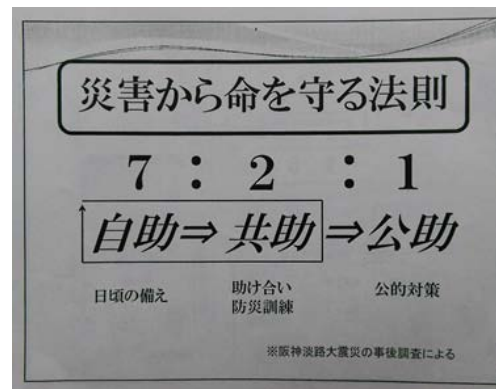
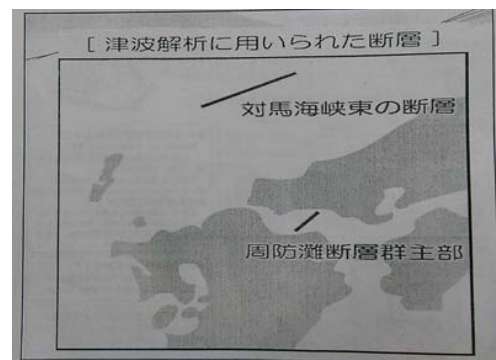
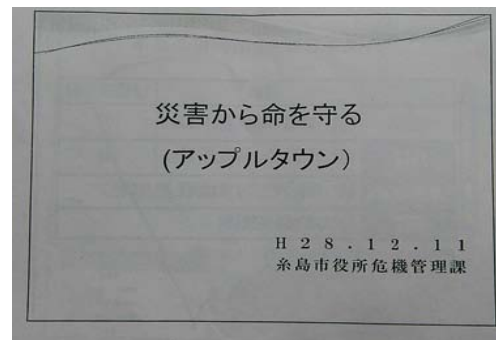
#### 【参加者の感想】

○自身が住んでいる地域についての防災情報という、日頃知りえない情報を得ることができる貴重で非常に有意義な講習会でした。近隣で熊本の大地震が発生した場合でも、津波被害は受けないと予想を知り、ホッとした反面、玄海原子力発電所の影響

を受ける可能性があるとのことなので、東日本大震災も他人事では済まされなく、日頃からの備えが重要であると改めて思いました。

○2016年4月に熊本で大きな地震が発生しました。これまでは、やや遠い地方での地震が多かったため、地震に対する意識が少なかったですが、緊急地震速報を聞いたときは他人事ではないと感じました。各家庭のみだけでなく、地域住民とともに災害に対する備えをすることは、非常に重要だと感じました。

○この講習会を受講して、最も印象的だったのは、防災のマニュアルはあくまでマニュアルに過ぎず、災害時における最善の判断は、それぞれのコミュニティや個人の状況によって異なるという事です。例えば、水害時の指定避難所に家から行くには、川の付近を通らねばならず、逆に危険なこともあるので、自宅で待機していた方が安全なこともあるとわかりました。そういったマニュアルではわからない細かな点をコミュニティの住民同士で確認し合えたことでこの講習会の大きな意義があったのではないかと思います。また、子ども向けのビデオもあって、子どもたちとも安全について話し合うきっかけとなりました。コミュニティの環境や状況もその都度変化すると思うので、定期的にこういった講習会などを開き、住民の意思疎通をはかっていくことが大事だと感じました。



## 受賞を契機に新たに取り組んでいること

### 1. コミュニケーションの機会を増やす

- 1) 懇親会・菜園活動の見直し
- 2) 地域行事への積極的参加
  - ・ 神社行事等

### 2. 防災活動

- 1) 防災活動の継続

## 調査検討費の使途

- 子どもを中心とした懇親会の実施(63名参加)
- 防災活動の実施(52名参加)、防災用品の配備
- すまいのまちなみネットワーク総会参加旅費

## 近い将来取り組まなければならない課題

### 1) 菜園の運営

当初、菜園活動については、農園作業が素人であり皆さんがスキルを付けるまでの間、共同運用としており菜園委員が一巡する数年後には見直しが必要である。(総会で承認)

### 2) 役員の兼務

地域(行政区)の役員が回ってきており、役員の兼務が想定される